



20210310

新中学2年
国語 神奈川全県チャレンジ

2021年3月実施 所要時間50分

【記入上の注意】

番号はすべて、頭に0を付けて枠の桁数に合わせる
(生徒番号の例) □□1234 → 001234

教科	団体コード(4桁)			教室コード(3桁)		
104						

氏 名

公開会場使用欄
ここにQRコードの
シールを貼って下さい

□ の部分がマークシート方式による解答欄です。

注意事項

- 1 HBまたはBの鉛筆(シャープペンシルも可)を使用して、□の中を塗りつぶすこと。
 - 2 答えを直すときは、きれいに消して、消しきずを残さないこと。
 - 3 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はっきり書き入れること。
 - 4 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしないこと。
※ この解答用紙はコピーを取ったものはご利用頂けません。

良い例	悪い例
	 總  小さい  はみ出し  丸囲み  レ点  うすい

生徒番号				
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
(3)	(3)	(3)	(3)	(3)
(4)	(4)	(4)	(4)	(4)
(5)	(5)	(5)	(5)	(5)
(6)	(6)	(6)	(6)	(6)
(7)	(7)	(7)	(7)	(7)
(8)	(8)	(8)	(8)	(8)
(9)	(9)	(9)	(9)	(9)

問四	
からだと思います。 28	中学生が小学生に比べてあまり本を読まない一番の理由は、 20 30

	問三
(力)	
II	I
24	

(7)			
4	3	2	1
$\frac{1}{3}$	3	2	1

そのドイツ人が通訳に言う。

——昨日の缶詰の件で、そのマイスターに会いたいと伝えてくれ

男が訳す前に、コウはドイツ語で言つた。

——商談なら私が

すると三人は、いつせいに眉を上げ、コウのドイツ語を褒めた。

——これは驚いた。日本女性が、わが国の言葉を流暢に話そとは、夢にも思わなかつたな

入港したドイツ軍艦はエムデン二世号といつて、最初に話をした男が艦長だつた。もうひとりの軍服姿が、艦内の生活物資購入の責任者で、セーラー服の水兵が調理を担当しているという。

——昨日、デービス領事から、ソーセージの缶詰をもらつた。それが本場の味で、とても美味しかつた

ので、ぜひ買ひ入れたいと思う

コウは興奮を抑えて言つた。

——ありがとうございます。では、どれほどの量を納めましょう

すると物資の購入担当が聞き返した。

——在庫は、どれほどある?

缶詰は裏の倉庫に山積みになつてゐる。今まで売れなかつたソーセージを、片端から缶詰に加工してお

り、もはや、しまう場所にも困るほどだ。

量を伝えると、購入担当は全部、引き取るという。夢のよろんな話だつた。

だが商談が決まりかけた時に、艦長が言つた。

——主人にも、お会いしたい。故国を遠く離れて、こんなに美味しいソーセージを作るマイスターに、

ぜひ接客したいので――

コウは、またもや進退ぎわまる思いがした。会わせたら断るに決まつてゐる。

どうしようと迷つてゐるうちに、二階から足音が聞こえてきた。レイモンが降りてきてしまつたのだ。

コウは慌てて夫に駆け寄つた。

——がレイモンは三人を一瞥し、不機嫌そうに言い放つた。

——私は軍人が嫌いでね――

コウは絲毛立つた。

しかし艦長は気を悪くした様子もなく、相変わらず穏やかな口調で話す。

——軍人が客で申し訳なかつたが、どうか缶詰を譲つてもらいたい。士官だけでなく、水夫たちにも食べさせたいのだ。故國の味に、さぞ喜ぶだろう――

レイモンは返事もしない。

すると今度は購入担当が言つた。

——ちょっと工房を見せてもらえないか。衛生状態などを調べておきたいので――

コウは、もう駄目だと観念した。レイモンは工房を人に見せたがらない。作り方を秘密にしていて、コウが入るのさえ好まない。

——だが意外なことに、今日に限つてレイモンは拒むことなく、黙つて階段を登り始めた。艦長たちが後に続いて、文句を言わない。

コウは怖くて登れなかつた。今にも二階から怒声が響いて、通訳を含む四人が、大慌てで降りてきそくな気がした。

だが予想に反して、とんと怒声は聞こえない。それどころか笑い声が、もれ聞こえてしまだ。

怪訝に思つていると、艦長を先頭にして、四人が笑顔で降りてきた。最後に降りてきたレイモンの表情

も和らいでいる。それからレイモンは裏の倉庫に案内し、扉を開けて山積みの缶詰を見せた。

——おお、宝の山だ――

店に戻るなり、購入担当が小切手を取り出して、とてつもない金額を書き入れ、艦長がサインをしてコウに差し出した。

——今日にでも、水兵たちに取りにこさせるので、よろしく頼む――

艦長がレイモンと握手した。

——こんな遠くの街で、顧問者のマイスターに会えて光榮だつた――

コウは手の中の小切手を見つめた。借金の返済は、なんとか引き延ばしてきただが、もう限界だつた。でも、この小切手を現金化すれば、完済してなお余りある。夢を見ていくような気がした。

一同が立ち去つてから、レイモンが肩を寄せて聞く。

——これで、よかつたか?――

——もちろん。でも、なぜ?――

——あの艦長が、水夫にも食べさせたいと言つただらう。あれが気に入つたのだ――

エムデン二世号は練習艦で、百五十名の士官候補生のほかに、艦長や指導員、そして水夫たちを含めて二百名もが乗船しているという。

コウは合点した。レイモン自身、前の世界大戦で下級兵士として辛酸を嘗めた。だからこそ下級の水夫たちに美味しいものを食べさせて、喜ばせたかったのだ。

それでも疑問は残る。

——でも、あなたは二階に上がるまで、ずっと不機嫌そつたじゃない――

コウは合点した。レイモン自身、前の世界大戦で下級兵士として辛酸を嘗めた。だからこそ下級の水夫たちに美味しいものを食べさせて、喜ばせたかったのだ。

——それに?――

——軍人も軍艦も好きではないが

少し言いよどんでから続けた。

——仕方ない。君の望みをかなえたのさ――

自分の信念を曲げてまで、妻の願みをかなえたのだという。やや押しつけがましくはあるものの、コウは、そんな言い方を微笑ほほえんで感じた。

そして小切手を片手に持つたまま、夫の首に両腕を巻きつけた。

——ありがとう。ありがとう。うれしいわ。これで、ひと息つけるわ――

（注）チサリコウの祖母。かつて勝田旅館を経営していた。

北海道の畜産や酪農の改善も、模範農場も、レイモンとコウは北海道の気候を利用して家畜を飼育する計画を立て、「食料の自給体制」という提言書を北海道庁に提出している。

辛酸を嘗めた。辛苦しい経験をすること。

(7) ——線1「コウは食い下がつた。」とあるが、そのときの「コウ」を説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「レイモン」の軍人嫌いを克服させなければ、自分たちの店は経費がかさんで借金で潰れてしまうと焦っている。

2 「レイモン」の言い分に矛盾を感じ、祖母の考え方をレイモンに認めさせることで、軍人との取引を成功させようとしている。

3 「レイモン」が軍人との取引を嫌がれば、北海道での畜産の計画が水の泡になつてしまつて理解させようとしている。

4 軍人と商売しなければ、借金で自分たちの店が潰れてしまうと焦り、何とかして「レイモン」を説得しようとしている。

(8) ——線2「コウは、またもや進退歩まる思いがした。」とあるが、そのときの「コウ」を説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「レイモン」を館長に会わせてしまつて、商談が破談になつてしまつて思い困り果てている。

2 商談を成功させなければ、領事館の「デービス」にも迷惑がかかつてしまつて焦つてている。

3 「レイモン」を艦長に会わせることができず、商談の成功にも疑問をいただきはじめている。

4 「レイモン」を会わせたら商談の破談は確定なので、商談の行く末をあきらめている。

(9) ——線3「私は軍人が嫌いだね」とあるが、ここでの「レイモン」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 戦争をするための人間には自分の商品を売らないという信条に従い、べもなく申し出を断るようには、吐き捨てるように読む。

2 軍人は戦争をする人間だから嫌いだが、妻の前ではつきりとその考え方を述べるのをためらうように、申し訳なさそうに読む。

3 戦争をする人間である軍人と話していることが許せないという気持ちが伝わるよう、怒りをこめて激しい口調で読む。

4 自分が軍人だったときの堪えられない思い出が浮かび、それに苦慮していることがわかるように、余韻をのこすように読む。

(10) ——線4「コウは、もう駄目だと観念した。」とあるが、そのときの「コウ」を説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 作り方を秘密にしていて「レイモン」が、ドイツ軍艦に乗っている軍人に衛生状態を教えるわけがないと思い、商談が破談になつてしまつことを覚悟している。

2 ただでさえ軍人が嫌いなのに、階級の低い軍人にはなおさら衛生状態など「レイモン」が伝えるはずがなく、商談が破談になつてしまつことを覚悟している。

3 ドイツ軍艦の艦長の誓言だけでなく購入担当の軍人の発言にも憤りを隠せない「レイモン」の姿を見て、商談が破談になつてしまつことを覚悟している。

4 工房を見せてほしいという申し出を受けるはずがなく、商談が破談になつてしまつことを覚悟している。

(オ) ——線5「今日限つてレイモンは控むことなく、黙つて階段を登り始めた。」とあるが、そのときの「レイモン」を説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「レイモン」は、軍艦は軍人だけが乗っているのではないということを思い出し、水夫のためにできることをしたいと考えて普段は取らない行動をしている。

2 「レイモン」は水夫に販売するのだと自分に言い聞かせ、軍人でない人を商売相手にできるならば仕方ないと信念を曲げたように見える行動をしている。

3 軍艦に乗っている水夫にも食べさせたいという艦長の言葉に気が変わり、「コウ」の願いを叶えようとして自分の信念に反する行動をしている。

4 艦長の言葉から同郷の水夫のためにソーセージを賣ることがわかり、同郷の人間のためになるならばと考えて普段は取らない行動をしている。

(カ) ——線6「ありがとう。ありがとうございます。これで、ひと思つけるわ」とあるが、そのときの「コウ」を説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 難しい商談を「レイモン」が取りまとめてくれたことに感謝し、人生に希望を見出している。

2 「コウ」の願いを叶えてくれた夫の器の大きさに感謝し、改めて夫の能力の高さを感じている。

3 「レイモン」が商談を成功させてくれたことに感謝し、借金を返す日がたつたことに安堵している。

4 「レイモン」の態度が軍人に失礼でなかつたことに安心し、はりめでいた緊張がほぐれている。

(キ) ——線6「夢のような話だつた。」——線6「夢を見ているような気がした。」とあるが、これらの表現から読み取れる「コウ」について説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 今まで売れなかつたソーセージがやつと売れるようになったという歓喜に打ち震え、また、その商品を売つたときの金額を目にして、現在までの損失が補填できるほどだと感激している。

2 在庫の全てを引き取るという話があつた時点でもうますぎる話と感じているが、その話が現実となり、提示された金額をみてなおも、身に起つた幸運を現実のこととして受け止めきれずにいる。

3 在庫をすべて購入するという現実とは思えないような申し出を聞いて怪訝に思つたが、後にその申し出は軍人たちの本心から言つていたということがわかり、騙されたのではないかと安心している。

4 山積みされている缶詰を全て購入するという軍人の申し出には信じがたいものがあつたが、商談がまとまつて金額が提示されてやつと、その申し出は現実のものであると認め始めている。

(ケ) この文章について述べるものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

1 肉の加工品を売る、借金に苦しむドイツ人と日本人の夫妻が、軍人との商談をまとめて大きな利益を得ていくまでの過程を、比喩を多用して印象的に描いている。

2 ドイツ人の夫が日本人の妻と協力しながら、ドイツ出身である軍人との商談を成功に導き、巨富を得るまでの過程を、夫妻が共有する思い出を交えながら写実的に描いている。

3 ドイツ人の夫と日本人の妻が、軍人に対する考え方の違いを乗り越えながら大きな利益を得るまでの過程を、会話表現を多く用いて臨場感ゆたかに描いている。

4 日本人の女性が、夫のドイツ人と力を合わせ、夫の商品をドイツの軍人に売る大きな商談をまとめしていく過程を、「軍人」の視点から説得力のある文体で描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答へなさい。

(風)

二十一世紀に入つたある年の冬、フランスを大きな嵐がおそった。経験がないほどの大風が吹いたとフランスの人々はいう。街樹は倒れ、ベルサイユ宮殿の森は倒木で危険なために、しばらく入場禁止になつた。

「自然の神が怒った、と言う人はいなかつたのですか。」

嵐の話を聞いていたとき、私がそう言うと、説明していた人はびっくりした顔をした。無理もない。自然の神はフランスには存在しないのだから。

私はもう少し丁寧に説明することにした。日本には、自然の異変があつたとき、人間が自然や自然の神々を怒らせたからだと感じる人が結構いる。原因は、人間の身勝手な行動にあつたのだと。もちろん、自然の神々がいるかどうかは日本人だつて知らない。しかし、そう考えて人間の社会のあり方を反省する精神の習慣が日本にはある……。

そう説明すると、「そんな非合理で、非科学的なことは、フランス人は考えない。」という答えが返ってきた。人間には、たとえ變えようとしても、變えられないものがある。それが風土であり、風土をつくりだしてきた自然である。あるいは、その自然とともに生きた人々がもつてゐる精神の習慣である。そうである以上、人間は基本的にローカルな世界で日々の営みをおこない、社会をつくり、その地域に特有なもの考え方をつくりだす。

その時間的な蓄積が歴史であろう。すると歴史の基礎には、その地域の自然があり、その地域に生まれた自然と人間の関係があるのでないだろうか。歴史は、基本的にローカルなものとして蓄積されているのでではないだろうか。A、フランス的なものの考え方をつくりだしていった歴史があり、日本のな考え方をつくりだしていった歴史があるように。そのフランスや日本にも、地域ごとに、さまざまな考え方を生みだした歴史があつたように、人間や自然と等身の大の歴史は、複雑に多様で、多層的につくれられてゐるのではないかと私は思う。

B、私たちが学んだ歴史は、そのような多様性をもつてゐなかつた。歴史はひとつであるのかととてもあつた。それは国家ごとの歴史であり、世界史といふ歴史だったのである。多様にあつたはずの歴史は、國家ごとの歴史へと統合され、世界史といつたひとつ歴史へと統合されていた。

近代社会は、なぜそのような歴史をつくりだしたのだろうか。その原因のひとつは、近代社会が、自然を克服し、人間が自然を支配しようとした社会だからである。だから、歴史における自然の役割が無視された。自然を無視すれば、歴史をつくりだした基礎であるはずの自然と人間の関係も、そこから築かれていく風土も、歴史の視野から消える。いわば近代社会は、人間の歴史だけを書こうとし、その結果、歴史を見えなくした。

もうひとつの原因是、近代以降が、国家を基盤にした資本主義の展開や、国民国家の成立、資本主義が世界性を確立していく時代であつたことからもたらされた、いわば、地域から国家へ、国家から世界へといふ時代の流れが、この時代に対応した歴史を書かせ、そのことが歴史のローカル性を視野から消し去つたのである。

ところが、二十世紀の終わりになると、私たちは、社会の共同創造者であつた自然に、あらためて関心をいだきはじめた。国家を軸にして、世界の支配権を争つた二十世紀的あり方の問題点も感じられるようになつてきた。

とすれば、近代的視座とは異なつた視点から、新しい歴史が書かれる必要性はないだろうか。

(わが「村」)

「共同体」とは、最近まで、否定的なニュアンスを伴つて使われてきた言葉であった。封建的、古いもの、個人の自由が圧殺された社会、近代化されていない社会というような評価が、この言葉には寄りそつていだ。一九七〇年代初期に、農業経済学者の守田志郎が伝統的な「村」のあり方に、積極的な意義があることを提起したとき、それは当時の研究者たちを驚かせたものである。守田は、村とは何か、農業とは何かを掘り下げるこことによって、「共同体」がはたしてきた役割に注目した。

それから三十年が過ぎ、いまでは「共同体」の評価は激しく揺れ動いているようみえる。歴史社会学が、中世、近世の民衆の研究を深めたこともあって、農村の暮らしにおける共同体の役割を積極的にとり扱うべきである見解は、研究者の間では次第に多数派のものになつてきを感じられる。

△ ところで、この農山村の共同体について論じようとするとき、私たちは、ひとつ壁があつたことを確かである。その壁とは、私たちが実感をもつて知つてゐる共同体は、大なり小なり、近代化の過程でこれまできた共同体だということである。つまり、これまで日本の共同体としてとらえられてきたものは、近代化の過程で生じた、現実社会では個人主義が浸透しはじめてかららの共同体であつて、それ以前の純粹な共同体を、私たちは、実感をもつてつかむことは、できなかつたのである。

その結果、これまで共同体批判としておこなわれてきた内容の多くは、「本当の共同体」に対して向けられたものではなく、共同体がこわれているがゆえに生じた問題点に對しておこなわれていた、といふ面をもつていて。とすると、近代以降の変化の影響を受けけていない「本当の共同体」を、私たちはつかむことはできないのであらうか。私は、そんなことはないとと思う。△ 日本では、もともと村とか集落といった言葉は、人間の社会をさるものではなく、自然と人間が暮らす共同の空間をさす言葉であった。「わが村」とは、「わが人間たちの村」を意味しているのではなく、「わが自然と人間の村」のことであつた。村や集落の半分は自然によつて構成されていた。

その自然は、日本では、大きな地域差をもつてゐる。北から南へと延びる日本列島にはさまざまな気候があり、多様な地形と川や森がある。だから、その自然とかわりながら形成された各地の村々には、その村が育んできた農業のかたちや、生活の習慣、自然利用の形態がある。

この自然の時間と人間の時間が蓄積されるようにしてつくれられたさまざまな風土。共同体とは、この風土とともに生まれたものである。

とすると、「日本の農村共同体とは」という言い方が、そもそも、不適当だということにならないだろうか。日本の共同体は、その地域の自然がそれぞれ異なる以上、ひとつひとつの差異が大きかつたのではなかいか。つまり、日本には、同じ構造をもつ共同体が各地にあつたのではなく、さまざまな共同体が各地に展開していた、と考えたほうがよいのではないか。もちろん、稻作などからくる共通性があつたとしても、近代化による変質をとげていない共同体は、自然と人間の集落として、それぞれの地域にローカルな社会としてつくれられていたのだと、私は考へてゐる。すると、日本の新しい歴史観をつかみなおすには、私たちは、日本の自然と人間の関係とは何かを、再検証しなければならないはずである。

(注)視座=物事を見る姿勢や立場。
(内山 順一)「里」という思想から一部表記を改めたところがある。

(ア) 本文中の〔A〕・〔B〕に入る語の組み合わせとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 A だから B なぜなら
3 A さらに B それゆえ 4 A けれども B ところが

(イ) 線1「説明していた人はびつくりした顔をした。」とあるが、その理由として最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 日本人の持つ精神の習慣は、フランス人には非合理で非科学的な考え方であると感じるから。
2 日本人が非合理で非科学的な考え方をしたが、フランスに自然の神がないと実感したから。
3 日本人は自然現象に対して非合理な認識をしていて、科学に否定的な考え方をしているから。
4 日本人はフランス人の持つ精神の習慣こそ、非合理で非科学的であると主張しているから。

(ウ) 線2「その地域に生まれた自然と人間の関係」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 変えようにも変えられない風土を生む自然と、日々の生活を送るなかで社会をつくり、その地域の環境と対立する精神の習慣を持つ人間の関係。
2 国土全体がもたらす自然と、その中で共同体を形成して、所属する人々同士が助け合わなければ生存が脅かされてしまう国民という人間の関係。
3 複雑で多様に変化しながら風土を築きあげる自然と、日々の営みの中で自然を利用しながら個人の利益を追求していくとする人間の関係。
4 決して変えることができない地域の風土をつくりだす自然と、そこで生活をして特有の社会やもののか考え方と共につくりだしていく人間の関係。

(エ) 線3「多様にあつたはずの歴史は、國家」との歴史へと統合され、世界史といううつたひとつの歴史へと統合されていた。」とあるが、その理由を説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 近代社会は経済的な強国を中心として地球規模にまで拡大し、また、その内容は自然ととの関係を重視した昔からの社会の在り方を反省するようなものであつたため。
2 近代社会は人間が自然を支配しようとしたものに変わり、また、地域から国家へ、国家から世界へ向かっていく時代の流れが、その時代に対応した歴史を求めたため。

3 近代社会は人間の歴史のみを必要とするものへと変化し、また、それゆえに人知を超えた存在を無視するような、合理的で新しい歴史を書き直す必要があつたため。
4 近代社会は複雑で多様な地域のあり方を無視することによって成立し、また、歴史を生きる人間の側も、自らの近くにある自然への興味や関心を失つてしまつたため。

(オ) 線4「否定的なニアンスを伴つて使われてきた言葉であった。」とあるが、筆者がこのように述べる理由として最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「共同体」の積極的な意義は昔から提起されてきたが、当時の研究者たちによって意図的に無視されて評価されずについたから。
2 「共同体」の役割を封建的で古いものであると決めつけ、積極的な意義を提起する研究者たちが評価されていなかつたから。

3 「共同体」という言葉は近年まで積極的な意義を認識されず、近代化がなされていない古いものと評価されつづけていたから。
4 「共同体」は積極的な意義があることを理解されていたが、近代化によって個人の自由を庄穀するものと評価されていたから。

(カ) 線5「私たちには、ひとつ壁があった」とあるが、それについて説明した次の文中の〔I〕に入る語句として最も適するものを、本文中の△から▲までのなかから、〔I〕については四字で、〔II〕については三字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

私たちには、近代化の中で〔I〕が浸透はじめたから、共同体を日本の共同体ととらえてきたが、私たちの批判は主に共同体がこわれているために現れた〔II〕に対するものであり、近代化される前の共同体に対しては、実感をもつてつかむことができず、あまり論じられていない。

(キ) 線6「日本の農村共同体とは」という言い方が、そもそも「不適当だ」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 多様な自然が日本に存在しつつも、農業や自然利用などの全国で共通するものが多いため、独自の構造を持つ共同体だと言いい切れない。
2 日本の自然は大きな地域差があり、独自の共同体が各地につくられていたため、同じ構造を持つ共同体が全国に存在していたわけではない。

3 日本の自然は地域によつてそれぞれ異なつていて、同じ構造を持つ共同体が数多く存在していたため、独自の共同体が形成されなかつた。

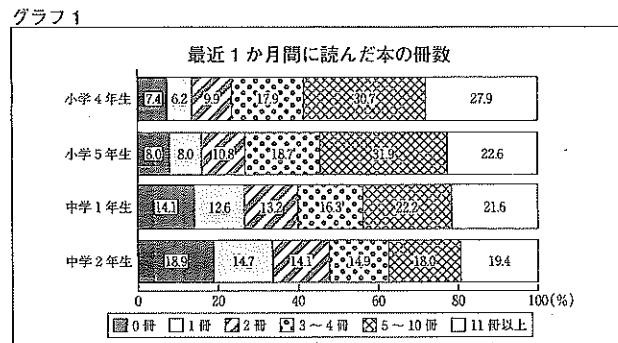
4 地域によつて共通する気候や自然環境があるため、同じ構造を持つ共同体が各地に存在し、独自の共同体が各地に展開していたわけではない。

(ク) 本文について説明したものとして最も適するものを次のなかから一つ選び、その番号を答えなさい。

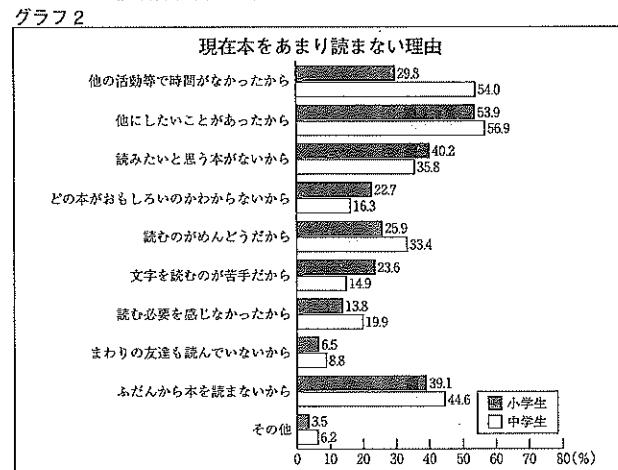
1 自然と共同でつくった歴史から自然の役割が消し去られた原因について、現在の日本の共同体に生じる長所と短所を示しながら論じている。
2 近代以降の時代に合わせ自然の役割を捨て去つた歴史の見直しについて、共同体の差異を拡大させた資本主義を批判しながら論じている。
3 近代的視座によつて自然の在り方を無視して書かれた歴史の問題点について、日本とフランスの共同体の特徴を対比させながら論じている。
4 自然の役割が消え去つた近代以降の歴史の在り方を見直す必要性について、歴史の基礎を築いた人間と自然の関係に触れながら論じている。

四

中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で小中学生の読書量について調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、文章はそのときのものである。これらについてあとの問い合わせに答えなさい。



(文部科学省「平成28年度 子供の読書活動の推進等に関する研究調査」より作成。)



(文部科学省「平成28年度 子供の読書活動の推進等に関する研究調査」より作成。)

読むことは多いですね。

Aさん 知らないことを調べる方法については、中学生になるとスマートフォンやパソコンを持っている人も多く、本よりもそのような情報端末を使って調べてしまうのかもしれません。いずれにしろ、中学生になると自分の置かれた環境が大きく変化することにより、読む本の冊数が減っていると考えられます。

Cさん そうですね。グラフ2からも学校生活以外の時間の使い方の違いが、中学生が本をあまり読まない理由につながっていることが分かります。

Dさん これまでの話を統合すると、グラフ2から読み取った内容から、中学生が小学生に比べてあまり本を読まない一番の理由は、□からだと思います。

Dさん そうですね。本日の話し合いで最もと考へてみたいと思います。

(ア) 本文中の□に入れるものとして最も適するものを次のの中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 一ヶ月に読む本が0冊と答えた割合は学年が上がるにつれて増加し、中学2年生では小学4年生の三倍以上である

2 一ヶ月に読む本が5冊以上と答えた割合は、小学生は半数以上だが、中学生では二～四割台になっている。

3 一ヶ月に読む本が4冊以下と答えた割合は、小学生は四割程度であるが、中学生では二年生とも六割台である

4 一ヶ月に読む本が2冊以下と答えた割合は、小学生は一割以上であるが、中学生は五割以上になっている。

(イ) 本文中の□に適する「Aさん」とばを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

① 書き出しの□中小学生に比べてあまり本を読まない一番の理由は□という語句に統けて書き、文末の□からだと思います。という語句につながる一文となるように書くこと。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十字以上三十字以内となるように書くこと。

③ グラフ2から読み取った具体的な内容に触れていくこと。

④ 「本を読む時間」という語句を、そのまま用いること。

(ア) 本文中の□に適する「Aさん」とばを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

① 書き出しの□中小学生に比べてあまり本を読まない一番の理由は□という語句に統けて書き、文末の□からだと思います。という語句につながる一文となるように書くこと。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十字以上三十字以内となるように書くこと。

③ グラフ2から読み取った具体的な内容に触れていくこと。

④ 「本を読む時間」という語句を、そのまま用いること。

Bさん 答えている項目によつては、小学生と中学生とで大して変わらない割合のものがある一方で、大きく違うものもありますね。

Dさん それを考へるためにグラフ2を見てください。小中学生が本を読まない理由を回答した結果をまとめたのです。

Cさん なぜ本を読まない人が多くなってしまうのでしょうか。

Dさん それを見るためにグラフ2を見てください。小中学生が本を読まない理由を回答した結果をまとめたのです。

Bさん そうですね。同じ調査による別の資料に、「何のために本を読むか」について調べたものがありますが、これによると、小中学生の七割以上が「本の内容を楽しむため」と答えています。

Cさん 本を読む最大の理由は、本の内容を楽しむためということですね。

Aさん そうですね。同じく調査による別の資料に、「何のために本を読むか」について調べたものがありますが、これによると、小中学生の七割以上が「本の内容を楽しむため」と答えています。

Bさん 「知らないことを調べたり新しく知つたりするため」と「宿題や課題で読む必要があるため」について、いずれも小学生の方が中学生より回答している割合が大きいです。

Dさん たしかに、小学生の時は読書感想文などが宿題になることが多い、知らないことを知るのに本を